

1 自己評価及び外部評価結果 (西ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102871		
法人名	医療法人社団 久誠会		
事業所名	鏡島弘法前ケアセンター		
所在地	岐阜市鏡島1293-2		
自己評価作成日	平成21年6月12日	評価結果市町村受理日	平成21年8月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102871&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成21年6月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根ざした施設を目標にしている。医療と密な連携ををしているので急変時には、同一法人のDが迅速に対応しています。現在入所中のご家族も安心している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の信念とする「利用者本位・自然体での支援」が様々な場面で感じられた。介護度の進行や車いす利用者の増加によって、外出支援は困難度を増しているが、利用者の要望が多い「弘法様の縁日参り」は毎月欠かさず続けられており、年に2回のバス旅行も継続支援されている。この旅行では、職員の手の少ないことを補完するため、地域のボランティアの人たちが応援参加する。利用者の状態や相性を見て、時折居室の変更を実施するのも、職員の都合ではなく利用者本位の施策と見て取れる。ホームの近くに母体となる医療機関(開業医院:院長がホームのオーナー)と老健を持っているため、医療連携体制には全く不安がない。他の提携病院への入院の際にも院長が付き添って行くことが多く、家族からの大きな信頼となっている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票（西ユニット）

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、運営理念を唱和し入所者一人一人に合ったケアが提供できるよう意見交換を行っている。	管理者は、理念に根差したケアの必要性を重視しており、職員への周知に力を注いでいる。ホームの入り口には、職員の合議で作成された分かりやすい理念が掲示してある。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しており、資源分別回収に協力している。天気の良い日は、弘法様に散歩に行き、その途中に地域の人からあいさつがある。	「地域との交流は自然体で」との管理者の思いそのままに、あえて特別な取り組みは行っていない。しかし、併設のデイサービス利用者とは、普段通りの付き合いもみられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回の介護教室を開いており、地域の皆様が多く参加して下さります。見学の申し入れがあった時は、随時見学をして頂いています。弘法前通信(広報誌)を発行して、地域の回覧に載せてもらっています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヵ月に1回行われており、意見を参考にしている。ボランティア活動について話し合った時、外出時のボランティアが不足しているとお伝えしたところ、入所者のバス旅行に運営推進会議委員の方がボランティアの参加頂けた。	3ヶ月毎に行われる運営推進会議では、ホームからの報告事項だけでなく、ホームが抱える課題や質の向上のための話し合いが行われている。改善事例も多く、議事録からは会議の有効性が見て取れる。	新たな外部評価制度下での「目標達成計画」を、有意義な形で運営推進会議に組み込んでいただきたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者状況等の報告は行っている。運営推進会議の時には常に参加して頂いております。	外部評価制度そのものへの行政の理解が深いことから、担当者とは面談の機会も多く、良好なコミュニケーションが図られている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で月1回の身体拘束&事故対策委員会を行っており利用者の安全を常に話し合っている。身体拘束マニュアルが作成去れている。	経営母体の医院や系列の老健、併設のデイサービス等を含めた形で身体拘束の防止に関する委員会が設置されている。委員会開催後には、会議の内容がホームの職員に伝えられている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	6番と同じで利用者の異変があった場合は、即原因を追及している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員から、研修報告書を提出してもらい全職員が把握できるよう努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	要介護度の変更があった場合は、料金変更が或る事を説明し納得してもらっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランに署名を頂く時に家族の意見や要望を聞いて、それを反映させている。その他の時にも家族からの要望があればそれをプランに入れている。	家族と職員との良好な関係からか、アンケートには苦情や否定的な意見は皆無であった。「意見や要望をすぐに実行に移してくれる」との感謝も寄せられている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のミーティングにて意見を出し合い話をしている。ひとつひとつの意見に対して実践し、改善を行っている。	毎月、グループミーティングとドクターミーティングを行っている。管理者の当法人勤務の長さや職員との経験・知識の差が、会議等では管理者からの「意見の一方通行」を引き起こしている面も見受けられる。	職員の意見をホーム運営に活かすために、時には管理者抜きのミーティングを実施し、職員から広く意見収集することも必要と思われる。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員5年毎に1度リフレッシュ休暇を提供し、心身のリフレッシュと更なるやりがいを持つよう心がけている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各委員会の勉強会、法人外の研修等に積極的に参加してもらっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のGHとの交流を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意見を尊重し、ケアプランに基づき行動を見守りながら、何がご希望なのか把握するように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時、家族の要望を聞き本人の様子を見ながら家族が希望されるプランを考える。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	16番と同じ		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話の中で、昔の習慣や物事の考え方を学ぶことがよくある。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回の家族との日帰り旅行、夏祭りの参加などで家族との関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や散歩などに出かけ、顔なじみの人などと話をしている。毎月21日の弘法様の縁日に知人・友人に出会い昔話をされている。面会もあり楽しまれている。	特別の取り組みをしているわけではないが、これまでの関係から、散歩の途中やデイサービス利用時に、地域の人たちと挨拶や言葉を交わす関係はみられる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	月2回のレクリエーションや誕生会を充実させており、他利用者との交流を深めている。日常生活では気の合う人どおしの席を考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GHから病院に入院後、法人の老健に入所されてかたもいる。GHから老健に入所したかたの必要に応じフォローしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向は、衛生面や事故のリスクを考慮した上で、できるだけ取り入れるように努めている。	利用期間の長さや高齢化によって、思いを表出できなくなってきた利用者もいるが、管理者・職員は意向把握のために細かな神経を使っている。当日、自発的にデイサービスに参加するグループもあった。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中から、生活歴や生活環境、これまでのサービス利用の経過等を把握して、それにそったケアを提供できるようミーティングで話し合っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人に勤めてみて出来る作業はしてもらい、負担になる時は、無理強いせず出来る事を探っている。現状は持続性がなくなっている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝のミーティングと毎月のミーティングで気づいた事を話し合いそれに沿ってプランをたっている。	職員の日々の気づきを介護計画に盛り込んでいる。家族からの要望を反映させる仕組みがあり、家族からは高い支持(アンケートの満足度)を得ている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録に加え、朝のミーティングや毎日のミーティングで気づきを話し日々のケアに生かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズは可能な範囲で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	最寄りの薬局や郵便局に利用者が出向き会話することにより社会とのつながりを感じることができている。運営推進会議に地域包括支援センター・自治会長・民生委員の方々に参加して頂きGHとの連携を図っている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の三浦医院に定期受診すると共に本人、家族等の希望に応じて、かかりつけ医に受診してもらっている。又、本人の病状に合わせて、それに適した医療機関を受診していただいている。	ホーム近くに法人の経営する開業医があるため、病状の変化や突発的な事象にも対応力は高い。入院時に医師が付き添うこともまれではなく、家族にとっての大きな安心感につながっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配属されているので服薬管理、健康管理に努めている。病状に合わせて医療機関とも連携し受診等受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際は法人のDr. が家族と相談しながら医療機関を紹介している。医療機関との情報交換や相談は、当診療所を通じて密に行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は家族とかかりつけ医と話し合い、本人の病状と意思を聞きながら対応している。	重度化して本人の意思確認が難しい場合には、家族の意見を尊重し、医師のアドバイスをもらって対処しようとしている。これまでの2回の看取り経験が、職員にとっての自信となっている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し事務所に一部と各職員全員持っている。また勉強会をひらき実践力の向上に努めている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い利用者が避難できるようにしている。今後は、地域の方々にも避難訓練に参加して頂き協力を得られるように取り組んでいく	夜間想定での避難訓練を行っている。実施後の反省として、「地域の協力」の必要性がクローズアップされた。	職員が少ない夜間の災害は大きな犠牲を生む。この課題は、運営推進会議での格好の討議テーマとなる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人で待遇委員会を設置しており、言葉づかいの改善に取り組んでいる。	法人全体での委員会が設置されているためか、職員の意識は高い。季刊の便り「鏡島弘法前通信」への写真掲載の同意を家族から取っている。	「鏡島弘法前通信」へ、利用者の写真掲載の同意がとられていることの記述が欲しい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人の会話や表情からその時の思いを感じ取り支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の状態や行動、習慣、今考えていることを察知し支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできない人には持っている衣類の中から、毎回同じ洋服にならないように清潔感・体にあった物・また本人の好みも聞き入れ支援する。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備やテーブル拭きなど利用者の協力も得ながら行っているが食材の下準備の途中でも持続性なく投げ出す人もいる。	認知症レベルが進行してしまったユニットでは、利用者が食事の準備を手伝う風景はほとんど見られない。しかし、職員が隣に座り、会話をしながら食事を共にする微笑ましい光景は見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかを「食事のバランスガイド」を参考にして調理をしている。又、体調や嗜好に合わせ両ユニットで協力をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の能力に応じ、毎食後、洗面台にて見守り一部介助にて全員が歯磨き、入れ歯洗いを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を参考にし一人一人の排泄時間に合わせて誘導等を行っている。又、職員間でも排尿の有無を申し送りもれないようにしている。	介護度の進行により、排泄介助が必要な利用者が増加している。排泄パターンを把握してトイレ誘導し、自立排泄を回復させる取組を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い野菜や生野菜を多く使用し副食を作っている。散歩に出かけたり室内自転車を設置してあるので適度な運動を促している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日には1階の梅の湯、車いすの人は機械浴、ユニットにある個人浴。身体機能や希望に応じ入浴の身体能力や希望に応じ、入浴の支援を行っている。早く入りたい人や、テレビを見たい時間等も考慮している。	入浴支援に関しても、併設のデイサービスの設備・施設を有効に利用して利用者のニーズに応えている。週1回の大きなお風呂への入浴は、温泉気分を楽しめる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はホールでの様子を見ており休息が必要な人は、居室に案内をして休んで頂いている。20時以降は不穏状態に対しホールにて対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の状態に少しでも異変が見られると定期薬の変更があったのかと関心を持ち薬剤情報に目を通している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の能力に合った軽作業をして頂いている。(針仕事、食材の皮むき、洗濯たたみ等)週1回OTによる作業療法を行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は弘法様まで散歩に出かけている。毎月21日は弘法様の日で、全員で出かけて行き、買い物を楽しむ人もいる。年2回の家族旅行を行っており地域の人にボランティアをお願いし参加をして頂いている。	介護度の進行や車いす使用の増加により、日常的な外出の支援が減少傾向にある。そのような中でも、利用者の希望が多い毎月の弘法様へのお参りは継続されている。	家族アンケートでは、最も評価の低かった項目である。利用者の現状や外出支援の限界を、家族に正しく認識してもらうことも必要であろう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	毎月21日の弘法様に出かけた時、バス旅行に行った時は本人が支払うに支援している。		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	電話は本人の希望があればいつでも支援してる。手紙を書いて出すことができる人は現在は見えません。		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	観葉植物や草花に季節を感じていただくようにしている。	両ユニットとも、居間の南側に大きなガラス窓を配し、自然光を十分に取り入れている。1階と結ぶ階段は幅が広く、利用者が連れ立って行き来しても不安がない。	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	サンルームの中で気の合った利用者同士で過ごしたり、家族・知人が来設された時もサンルームにて過ごして頂いている。		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室のボードに思い出の写真や本人の作品が貼ってある。	利用者の状態や相性を見て、必要な場合には部屋替えを行っている。毎月2回実施される「生け花教室」の作品がどの部屋にも飾ってあった。破壊癖があり、調度・家具の持ち込みがほとんどない居室もある。	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	汚物室をトイレと勘違いをして入ってしまうので、使用後は必ずドアを閉めておく。		

1 自己評価及び外部評価結果 (東ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102871		
法人名	医療法人社団 久誠会		
事業所名	鏡島弘法前ケアセンター		
所在地	岐阜市鏡島1293-2		
自己評価作成日	平成21年6月12日	評価結果市町村受理日	平成21年8月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102871&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成21年6月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根ざした施設を目標にしている。医療と密な連携ををしているので急変時には、同一法人のD.r.が迅速に対応しています。現在入所中のご家族も安心している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票（東ユニット）

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、運営理念を唱和し入所者一人一人に合ったケアが提供できるよう意見交換を行っている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しており、資源分別回収に協力している。天気の良い日は、弘法様に散歩に行き、その途中に地域の人からあいさつがある。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回の介護教室を開いており、地域の皆様が多く参加して下さります。見学の申し入れがあった時は、随時見学をして頂いています。弘法前通信(広報誌)を発行して、地域の回覧に載せてもらっています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヵ月に1回行われており、意見を参考にしている。ボランティア活動について話し合った時、外出時のボランティアが不足しているとお伝えしたところ、入所者のバス旅行に運営推進会議委員の方がボランティアの参加頂けた。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者状況等の報告は行っている。運営推進会議の時には常に参加して頂いております。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で月1回の身体拘束&事故対策委員会を行っており利用者の安全を常に話し合っている。身体拘束マニュアルが作成去れており。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	6番と同じで利用者の異変があった場合は、即原因を追及している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員から、研修報告書を提出してもらい全職員が把握できるよう努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	要介護度の変更があった場合は、料金変更が或る事を説明し納得してもらっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランに署名を頂く時に家族の意見や要望を聞いて、それを反映させている。その他の時にも家族からの要望があればそれをプランに入れていく。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のミーティングにて意見を出し合い話している。ひとつひとつの意見に対して実践し、改善を行っている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員5年毎に1度リフレッシュ休暇を提供し、心身のリフレッシュと更なるやりがいを持てるよう心がけている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各委員会の勉強会、法人外の研修等に積極的に参加してもらっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のGHとの交流を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意見を尊重し、ケアプランに基づき行動を見守りながら、何がご希望なのか把握するように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時、家族の要望を聞き本人の様子を見ながら家族が希望されるプランを考える。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	16番と同じ		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話の中で、昔の習慣や物事の考え方を学ぶことがよくある。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回の家族との日帰り旅行、夏祭りの参加などで家族との関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や散歩などに出かけ、顔なじみの人などと話をしている。毎月21日の弘法様の縁日に知人・友人に出会い昔話をされている。面会もあり楽しまれている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	月2回のレクリエーションや誕生会を充実させており、他利用者との交流を深めている。日常生活では気の合う人どおしの席を考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GHから病院に入院後、法人の老健に入所されてかたもいる。GHから老健に入所したかたの必要に応じフォローしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向は、衛生面や事故のリスクを考慮した上で、できるだけ取り入れるように努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中から、生活歴や生活環境、これまでのサービス利用の経過等を把握して、それにそったケアを提供できるようミーティングで話し合っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人に勤めてみて出来る作業はしてもらい、負担になる時は、無理強いせず出来る事を探っている。現状は持続性がなくなっている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝のミーティングと毎月のミーティングで気づいた事を話し合いそれに沿ってプランをたてている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録に加え、朝のミーティングや毎日のミーティングで気づきを話し日々のケアに生かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズは可能な範囲で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	最寄りの薬局や郵便局に利用者が出向き会話することにより社会とのつながりを感じることができている。運営推進会議に地域包括支援センター・自治会長・民生委員の方々に参加して頂きGHとの連携を図っている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の三浦医院に定期受診する共に本人、家族等の希望に応じて、かかりつけ医に受診してもらっている。又、本人の病状に合わせて、それに適した医療機関に受診していただいている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配属されているので服薬管理、健康管理に努めている。病状に合わせて医療機関とも連携し受診等受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際は法人のDr. が家族と相談しながら医療機関を紹介している。医療機関との情報交換や相談は、当診療所を通じて密に行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は家族とかかりつけ医と話し合い、本人の病状と想いを聞きながら対応している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し事務所に一部と各職員全員持っている。また勉強会をひらき実践力の向上に努めている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い利用者が避難できるようにしている。今後は、地域の方々にも避難訓練に参加して頂き協力を得られるように取り組んでいく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人で接遇委員会を設置しており、言葉づかいの改善に取り組んでいる。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人の会話や表情からその時の思いを感じ取り支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の状態や行動、習慣、今考えていることを察知し支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできない人には持っている衣類の中から、毎回同じ洋服にならないように清潔感・体にあった物・また本人の好みも聞き入れ支援する。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備やテーブル拭きなど利用者の協力も得ながら行っているが食材の下準備の途中でも持続性なく投げ出す人もいる。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかを「食事のバランスガイド」を参考にして調理をしている。又、体調や嗜好に合わせ両ユニットで協力をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の能力に応じ、毎食後、洗面台にて見守り一部介助にて全員が歯磨き、入れ歯洗いを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を参考にし一人一人の排泄時間に合わせて誘導等を行っている。又、職員間でも排尿の有無を申し送りもれないようにしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い野菜や生野菜を多く使用し副食を作っている。散歩に出かけたり室内自転車を設置してあるので適度な運動を促している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日には1階の梅の湯、車いすの人は機械浴、ユニットにある個人浴。身体機能や希望に応じ入浴の身体能力や希望に応じ、入浴の支援を行っている。早く入りたい人や、テレビを見たい時間等も考慮している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はホールでの様子を見ており休息が必要な人は、居室に案内をして休んで頂いている。20時以降は不穏状態に対しホールにて対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の状態に少しでも異変が見られると定期薬の変更があったのかと関心を持ち薬剤情報に目を通している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の能力に合った軽作業をして頂いている。(針仕事、食材の皮むき、洗濯たたみ等)週1回OTによる作業療法を行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は弘法様まで散歩に出かけている。毎月21日は弘法様の日で、全員で出かけて行き、買い物を楽しむ人もいる。年2回の家族旅行を行っており地域の人にボランティアをお願いし参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>毎月21日の弘法様に出かけた時、バス旅行に行った時は本人が支払うに支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は本人の希望があればいつでも支援してる。手紙を書いて出すことができる人は現在は見えません。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>観葉植物や草花に季節を感じていただくようにしている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>サンルームの中で気の合った利用者同士で過ごしたり、家族・知人が来設された時もサンルームにて過ごして頂いている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室のボードに思い出の写真や本人の作品が貼ってある。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>汚物室をトイレと勘違いをして入ってしまうので、使用後は必ずドアを閉めておく。</p>		